

老人クラブは

ただの年寄りの集まり じゃあなかとバイ!

写真説明／シルバーヘルパーと訪問先の皆さんの交流の様子。趣味で作った小物を披露したり、日々の暮らしを報告したり、笑顔あふれる訪問となりました



一人暮らしの高齢者を見守る シルバーヘルパー

「こんにちはー。暑かーねー。ばあちゃんは今日も暑い中、散歩してきたとね?」洗濯物を干していた山室久子さん(85)に話しかけたのは、田原老人クラブに所属するシルバーヘルパーの尾崎佐千子さんと坂本由美子さんです。

「6時半に目が覚めてな。なんやかんや家事ばしてから、暑うなる前にゆるーと歩いてきた」と山室さんはかくしゃくと答えます。

シルバーヘルパーとは、県老人クラブ連合会が、県から委託を受けて実施している「高齢者の見守り活動」を行う人たちです。養成講座を受講した各地域の老人クラブ会員で構成されており、月に1回、活動員が所属する老人クラブの地域に住んでいる一人暮らしの高齢者などを訪問し、安否確認や相談、助言などを行います。

町には現在約80人の活動員が登録されており、その最高齢はなんと88歳! 基本2人1組でチームを組んで、地域を訪問しています。

9月21日、田原チームは、田原にある10軒のお宅を2時間かけて訪

問しました。

訪問先の皆さんは、待ってましたばかりの笑顔! 楽しそうに近況や日々のちょっとした愚痴を報告します。全員とてもお元気で、買い物、洗濯、庭仕事なんでもこなします。「庭も手づかいてどこんこいかなけど、体の動くうちはちゃんと管理せんとね」と訪問先の一人、野口千鶴代さん(88)はしみじみと語ります。

年々成り手が減っているシルバーヘルパーですが、みんなの顔を見回るのは楽しく、やりがいがあると二人は口をそろえます。

高齢者の安全な暮らしと笑顔を守るシルバーヘルパーの温かい活動。それこそが地域を支える絆となっています。



田原老人クラブ シルバーヘルパー
坂本由美子さん(74) 尾崎佐千子さん(74)